

科目名	情報処理基礎Ⅲ Fundamentals of Information Processing Ⅲ			担当教員	重田 和弘			
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2	
分野	専門	授業形式	講義・実習	科目番号	14132015	単位区分	履修単位	
学習目標	目標区分(B)：知識—科学技術の基礎知識と応用力 4年以上の専門科目、卒業研究に必要なプログラムを自力で作成できる力を養うことを目標とする。情報処理基礎Ⅱで学習した内容を発展させ、実用的なプログラムが作成できるようにする。							
進め方	プログラミングの実習を中心に授業を進める。実習では、学生が自主的にプログラミングを行う機会（総合演習）を設ける。レポートの提出に加え、作成したプログラムのデモンストレーションを行う機会も設ける。							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標				
	1. ガイダンス(1) 2. コンピュータを利用するうえでのルールとマナー(2) 3. ポインタ(5) 4. 関数(6) [前期中間試験](2)			<ul style="list-style-type: none"> コンピュータとインターネットを利用するうえでのルールとマナーを理解できる。 ポインタを用いたプログラムの動作が理解でき、プログラムを作成できる。 関数を用いたプログラムの動作が理解でき、プログラムを作成できる。 				
	試験返却・解説(1) 5. 構造体(3) 6. 総合演習Ⅰ(6) 7. ファイル処理(4) 前期末試験			<ul style="list-style-type: none"> 構造体を用いたプログラムを作成できる。 関数、構造体等を適切に用いて、プログラムを作成できる。 作成したプログラムについて、文章と図を用いてわかりやすく説明できる。 ファイルの入出力処理に関する主な関数の使用方法を理解し、プログラムを作成できる。 				
	試験返却・解説(1) 8. 数値計算の基礎(13) (1)統計処理（平均、分散、標準偏差） (2)行列演算 (3)複素数演算、(4)ベクトル演算 (5)非線形方程式（二分法、ニュートン法） (6)多項式の計算（ホーナー法） (7)誤差 [後期中間試験](2)			<ul style="list-style-type: none"> 基本的な数値計算法を理解し、プログラムを作成できる。 数値計算で生じるさまざまな誤差の原因を理解し、その対処ができる。 				
	試験返却・解説(1) 9. 総合演習課題Ⅱ（11） 10. さまざまなプログラム（2） 後期末試験			<ul style="list-style-type: none"> 分岐処理、配列、関数、構造体等を適切に用いて、実用的なプログラムを作成できる。 作成したプログラムの概略についてわかりやすく説明できる。 C言語以外の代表的なプログラミング言語の概要を理解できる。 				
	試験返却・解説(1)							
	評価方法	評価の内訳は、定期試験の成績を80%、プログラミング実習（レポートを含む）の成績を20%とする。定期試験では、プログラミングに必要な文法知識を修得し、講義で取り扱った数値計算のアルゴリズムが理解できているか評価する。後期期末試験は情報処理基礎Ⅱ・Ⅲの全学習内容を試験範囲とし総合的なプログラミングの力を評価する。						
	履修要件	特になし						
	関連科目	情報処理基礎Ⅱ（2年）→ [情報処理基礎Ⅲ]（3年）→ アルゴリズム（4年） → オペレーティングシステム（4年） → コンピュータシミュレーション（5年）						
	教材	教科書：黒瀬能幸、福田之介、「やさしく学べるC言語」、森北出版						
備考	情報処理基礎Ⅱ（2年）の教科書を使用する。							